

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

ふるさことに亡父植ゑたる桐の花

白沢町 若林 ケイ

●特選の選評 昭和初期の頃までは、女の子が誕生すると、その子の嫁入りに備えて、家に桐の木を植える習慣があった。しかし、戦後嫁入道具として、たんすが家具店に並び、現代では新居のアパートには造り付け家具が用意され、桐の木を植える習慣は消えていったように思われる。この作者の今は亡き父が実家の庭に植えておいたであろう桐が今、紫色の花を咲かせている。父親を思う娘の気持ちがよく表現された一句である。

俳句



加茂都紀女先生

入選

詰襟が馴染む男児の聖五月

さつき3丁目 伊藤 幸子

満開の枹木県都の椽の花

野沢町 渡辺 明広

田終いや農衣をたたむ老父の背

弥生1丁目 大河原 信昭

風光る樹下のコーラスリハーサル

清原台6丁目 小太刀 節子

特選

水張田に初夏の雨降り始め
奏でられたる波紋の Rond

西2丁目 佐藤 順子

●特選の選評 一読してその場面がイメージできる歌は良い歌である。そして読む側も「奏でられたる波紋の Rond」の意味をくみ取らなければならぬ。初夏の風をまとった雨はバラバラと水面に波紋を打ち、それがまるで Rond のように見えたという心豊かな作品である。

短歌



藤本 都先生

入選

飛ぶことの叶はぬ我を置き去りに
たんばばの綿毛ふはふはゆけり

清原台1丁目 三木 紋子

震災の年に生まれし子の今朝の
中学生の制服眩し

下田原町 五十嵐 由美子

庭先のほたるぶくろう花咲けば
畦の螢を呼んで入れたし

針ヶ谷1丁目 糟屋 宮子

あまりにも短かき生命と嘆きつつ
朝々拾う夏椿の花

下栗町 田中 洋子

特選

項垂れて夢の重さよハルジオン

岩曾町 川室 正男

●特選の選評 ハルジオンの花言葉は追想の愛である。開花すると上を向くのだが、蕾は下を向いて過去の愛や夢を思い返しているようにも見える。そんなハルジオンの姿に自分の気持ちを重ねた秀句である。時には草花に目を向けて心の視野を広げたいものだ。

川柳



佐藤隆久先生

入選

まだ着れる背中のチャック手が届く

中岡本町 中沢 智子

誕生日今日は持病に目を瞑る

立伏町 大樹 龍五郎

契約書大事なことは小さい字

中岡本町 竹内 竹ノ花

気持ちだけ届け送料値上げなし

宝木本町 高橋 健次郎

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

〒320-8540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い